

平成 26 年 11 月 10 日

## スポーツ復興支援活動レポート 「いわき市立高野小学校・内郷第三中学校 スポーツ交流会」

流通経済大学  
スポーツ健康科学部  
准教授 西機 真

9月12日（金）に、流通経済大学スポーツ健康科学部の西機ゼミナールが企画する小中学生と大学生のスポーツ交流会が、いわき市立高野小学校と内郷第三中学校にて開催された。本スポーツ交流会は、2011年3月に起きた東日本大震災をきっかけに、学生たちがゼミ活動の一環として何かできないかと検討して始まった。被災地の子どもたちとスポーツを通して交流を図り、元気と笑顔を生み出したいと、2011年以降毎年継続して実施している。

毎年、大学生主体で、現地の先生と相談しながら、子どもの状況や要望を聞き、内容を検討して準備を進めている。過去に実施された内容は下記の通り。

【2011年】小学校『新体操とラグビーにチャレンジ！』

中学校『日本代表選手と話そう！小椋久美子選手(バドミントン)、平田美沙紀  
(本学新体操部)、ヴァカウタ・イシレリ (本学ラグビー部)』

【2012年】小学校『いろんなスポーツを体験しよう！』

中学校『大学生と話そう！大学ってどんなところ？』『タグラグビー大会』

【2013年】小学校『たくさん体を動かそう！体づくり運動(低学年)』

『大学生に挑戦！サッカー・ポートボール大会(高学年)』

中学校『模擬授業－大学でスポーツを学ぶ－』『中大連携！？大運動会』

今年は、午前中に小学生が『チーム対抗運動会』、中学生が『ライフセービング&水球体験』、さらに午後は小学生（高学年）、中学生、大学生が交流する『球技大会』が行われた。過去3年間は、4年生が中心となって企画運営してきたが、今年は3年生が中心となって準備をした。また、これまで学生が経費を自己負担することで取り組んできたが、全国大学体育連合に支援活動補助金を交付いただき、学生の負担を軽減することができた。



まず、小学生は1年生から6年生まで70名が一斉に同じプログラムを実施した。毎年、いかにみんなが楽しむことができるかということが課題であり、体力差、能力差を考慮して低学年と高学年に分けて行っているが、今回はその差を越えて交わるということが大学生たちの大きなテーマであった。縦割りの8チームに分かれて、それぞれの種目で得点を争い、合計点で順位を決める「チーム対抗運動会」を企画した。アイスブレイクの「仲間探しゲーム」からの始まり、「人間知恵の輪」、ルールに工夫を凝らした「鬼ごっこ」と、各チームに混ざった大学生もルール説明に悪戦苦闘しながら、小学生と一緒にアタマとカラダをしっかりと働かせた。そして、運動会でおなじみの「大縄跳び」と「リレー」でも熱戦が繰り広げられた。



中学生は、例年9月2週までプールで授業を行っているという情報を得て、プールを利用したプログラムを検討した結果、中学生ではあまり体験することがない「ライフセービング」と「水球」を行うこととなった。ところが、ゼミ唯一のライフセービング部経験者が、当日体調不良で参加できなくなるとアクシデントが起きた。しかし本学では、正課授業でもライフセービングに力を入れており、学生たちにとっては日頃の学習の成果を示す絶好の機会となり、大きな混乱はなく(?) ペットボトルによる救助方法やライフジャケットの活用方法などを紹介することができた。その後は、「宝探しゲーム」で大いに盛り上がり、最後の「水球」では、ドッジボールのように外野役を設定して、プールに入れたい生徒も参加できるように工夫した。



午前のプログラムを終えて、小中学生も大学生も楽しみにしている給食の時間を各教室で共にした後、午後は小学生（高学年）と中学生と大学生が交わるプログラムが行われた。まず、小学



生と中学生が混ざってチームを編成して「バレーボール」大会。しかし、ここでもルールをひと工夫して、レシーブの代わりにキャッチをするという「ファーストキャッチバレーボール」を行った。大学生が各チームを指導し、中学生が小学生をリードして試合をするという本日のハイライトは、能力差があってもラリーが続くので、みんなで楽しむことができた。

そして最後は、中学生と大学生が混ざってチームを編成して「フットサッカー（！？）」を行った。ルールはというと、ボールは手で扱いパスを繋いで前進を図り、シュートは足でゴールを狙うといった具合で、ハンドボールとフットサルを合体させたよう。中学生たちは、朝から一日中体を動かしているにもかかわらず、大学生と一緒にスポーツをする機会などないからか、最後まで大はしゃぎだった。



このように、震災以来続けてきて4年目を迎えた今回も、毎年学生も変われば内容も変わるが、今年も変わることなく小学生、中学生、大学生がスポーツを通して交流を図り、お互いに笑顔で元気に刺激を与え合う一日を過ごすことができた。最後に、本活動にご理解ご協力いただいた高野小学校、内郷第三中学校の教職員の皆さま、そして全国大学体育連合に感謝申し上げますと共に、今後も大学生の意思を尊重しつつ、本交流がいつまでも継続していくことを願って、本報告の結びにかえる。



# スポーツで交流の輪

## 内郷三中・高野小と流通経済大生

いわき市の内郷三中、併設の高野小のスポーツ交流会は十二日、同校で開かれ、児童、生徒が流通経済大の学生と楽しみながらスポーツの魅力体験した。

中学生の全四十二人はプールでライフセーリングを体験。数人で濡れた場合、輪になり、膝を折って体温の低下を防ぎながら浮かす方法を学んだ。初めはうまく浮かばな

かったが、学生のアドバイスで、次第に長時間浮くことができるようになった。

小学生七十人はグラウンドで体を動かした。長縄跳びにも挑戦し、学生の一、二、三の合図に合わせて、ジャンプしていた。

この日訪れた学生は、茨城県の流通経済大電ケ崎キャンパスのスポーツ健康科。三年生の修学旅行の行程に組み入れ、一、二年生は遠足として参加した。

大震災と東京電力福島第一原発事故後から両校を訪れ、スポーツを通じて児童、生徒を支援している。今年で四年目の訪問で、全国体育大学連合から復興支援事業として助成を受けた。

内郷三中は今春、同大電ケ崎キャンパスを訪問し、大学生と一緒に講義を受けた。三年生の修学旅行の行程に組み入れ、一、二年生は遠足として参加した。



プールで輪になり浮かぶ生徒



長縄跳びに挑戦する児童

平成26年9月14日(日) 福島民報新聞より

追記：当日の様子を、福島民報新聞にて取り上げていただいた。